

教育ヴィジョン研究センターの企画・運営戦略に関する研究（2）

研究代表者	草原 和博（社会認識教育学講座）
研究分担者	木下 博義（教職開発講座）
	松宮奈賀子（初等カリキュラム開発講座）
	川合 紀宗（特別支援教育学講座）
	三好 美織（自然システム教育学講座）
	影山 和也（数学教育学講座）
	川口 広美（社会認識教育学講座）
	棚橋 健治（社会認識教育学講座）
	山元 隆春（国語文化教育学講座）
	間瀬 茂夫（国語文化教育学講座）
	兼重 昇（英語教育学講座）
	永田 良太（日本語教育学講座）
	岩田昌太郎（健康スポーツ科学講座）
	井戸川 豊（造形芸術教育学講座）
	吉田 成章（教育学講座）
	森田 愛子（心理学講座）
	桑山 尚司（グローバル教育推進室）
研究協力者	大坂 遊（教育ヴィジョン研究センター）
	吉川 友則（教育ヴィジョン研究センター）

I 研究の背景と目的

本研究は、教育学関連分野の研究拠点として「教育ヴィジョン研究センター（EVRI）」（以下「EVRI」と略する）を確立するとともに、それを持続的に発展させ、自立ステージに移行させるための戦略を研究することを目的とする。

EVRIの立ち上げにあたっては、過去3か年に渡って「Curriculum Research & Development Center」の実現可能性を調査・研究してきた。また平成27年度には「ヴィジョンと戦略ワーキンググループ教育学研究科シンクタンク構想サブワーキンググループ」によって、本センターの設立が答申された。平成29年度には、①部局組織としての「広島大学大学院教育学研究科教育ヴィジョン研究センター」と②インキュベーション研究拠点としての「教育ヴィジョン研究センター」、それぞれの設置が承認された。

そこで本研究は、上の経緯を踏まえて、教科教育学・教育学・心理学（日本文学・日本語学等の隣接分野を含む）等のユニットが連携し、戦略的・組織的に社会貢献していくシステムを検討することを目的とする。とくに本年度は、**研究組織の構成と研究成果の発信、および一貫したイメージ戦略の構想と実装**に焦点を当てたい。この目的を達成するために、センター運営会議を、2017年7月20日、8月30日、9月28日、10月24日、11月29日、12月21日、1月23日、2月21日の計8回開催した。その結果、以下の原案が得られた。これらは、いずれもホームページ等への転載や活用を想定している。（草原和博*）

Ⅱ ホームページの原稿及び EVRI レターの様式

1. 挨拶

「教育ヴィジョン研究センター (Educational Vision Research Institute)」は、世界トップクラスをめざすことのできる広島大学の研究拠点として、第4期 (平成28年度公募) インキュベーション拠点に選定されました。拠点リーダーとして重責に身の引き締まる思いです。同時に、与えられた機会を存分にいかし、国内外の研究者、異分野の研究者、若い研究者と学問の楽しみを享受し、追究していける幸せを実感しています (下線部は別ページにリンクを設定する、以下同じ)。

EVRI は、決して研究拠点の確立だけが目的ではありません。研究拠点をつくるというチャンスとチャレンジを通して、学問と学問、学問と社会、社会の大人と子供、子供と未来、そしてヒロシマと世界、それぞれの関わりを「教育」を媒介にして構築していくことを目指しています。

EVRI の活動に、ご期待ください。ご意見、ご要望をお聞かせください。

拠点リーダー 草原和博

2. EVRI のミッション

EVRI は、”By EVRI, For Everyone: Innovative Educational Design” をミッションとします。それはすなわち、来るべき社会を先取りし、社会をリードする「教育理念」をデザインすること、そしてその理念を実現していくためのシステムとアクターを創出する「教育活動」と「教育環境」をデザインすることです。

既存の成果に学び、その価値を継承しつつ、ヒロシマ発、EVRI 発の「育てる」「学ぶ」の理論モデルを、政策プラン、そして教育ヴィジョンを構想してまいります。

上のミッションを達成するために、EVRI は次のヴィジョンを設定しました。

- (1) 教育の alternative (代替案) を提案します,
- (2) 教育の reconstruction (再構築) を促進します,
- (3) 教育の interaction (相互作用) の媒体となります,

この3つです。これらの具体は、「EVRI のヴィジョンと戦略」をご覧ください。



図1 トップページイメージ

3. EVRI のビジョンと戦略

(1) 教育の alternative を提案します

これはインキュベーション拠点の根幹をなすミッションといっても過言ではないでしょう。20 世紀の教育を仮に” Edu2.0” と称するならば、そのシステムを” Edu3.0” にパラダイムシフトさせる視点を提供すること、EVRIはこの活動に専心します。

このビジョンの達成に向けて、3つのユニットと6つのクラスタを設置し、研究を組織的に推進することにしました。



図2 組織紹介とロゴのイメージ

第1に【学習空間】研究ユニットです。

能力と年齢に応じて学ぶことが認められた世界が Edu2.0 と仮定するならば、全ての人とともに手を取り合って学ぶことのできる世界が Edu3.0 です。本ユニットでは、この世界を創出する視点を構想します。とくに多様な学習者の包摂と、多様性を基盤にした知識の創成の視点から「学習空間」をデザインするべく、それを実現していく思想と方略を解明します。本ユニットには、EVRI のメンバーが強みとする「知識創生」と「インクルーシブ教育」の2つのクラスタを置いて、拠点形成を推進することとしました。

第2に【カリキュラム】研究ユニットです。

国家が卓越した標準カリキュラムを与え、教師がそれを実行するシステムを仮に Edu2.0

と称するならば、教師と子どもが標準カリキュラムを使いこなし、自律的にカリキュラムを再構築することを期待し、支援するシステムが Edu3.0 です。本ユニットでは、このようなシステム転換をうながす視点を構想します。とくに多様性の尊重と共生、深い探究心、対立の調停と平和構築などの資質・能力（コンピテンシー）に焦点をあて、それを育てるカリキュラムと、それを実行できる人や場のデザインに取り組みます。本ユニットには、中等教育に軸足を置いた「IB 教育」と、高等教育に特化した「教師教育」の2つのクラスターを置いて、拠点形成の可能性を探ることとしました。

第3に【教育の専門家】研究ユニットです。

研究者は研究に専念し、教育を通してその成果を社会に還元していく単一方向の関係性を Edu2.0 と称するならば、研究を通して社会・教育に関わり、社会・教育の変革へのコミットを通して学術・理論の在り方を問い直し、再構築していこうとする双方向の関係性が Edu3.0 です。本ユニットでは、このような関係構築を生み出す視点を構想します。とくに研究と教育、学術と社会を架橋する方法論や専門性はもちろん、架橋を担う教育者・研究者を育てる仕組みのデザインにも取り組みます。本ユニットには、これらの課題に「教師教育者」と「教育学研究者」と、それぞれの側から迫るクラスターを設け、拠点形成に取り組むことにしました。

これらのビジョンの達成に向けて、EVRI が実施してきた「定例セミナー」と「研究拠点創成フォーラム」は、以下のとおりです（破線の下線部は広報のホームページまたは報告書代わりにの EVRI レター等にリンクを設定する）。



図3 EVRI レターの様式（左）と各活動の位置づけを示すチャート（右）

（チャートでは関係するクラスターの文字を強調し、拠点形成の全体像からみた各活動の位置づけを明確にする）

<2017年度 定例セミナー>

- 2017年9月28日【カリキュラム】研究ユニット（IB クラス）
David Booker 氏（UWC Atlantic College・元副校長）
..「Planning for Impact in the Baccalaureate」.
- 2017年10月24日【教育の専門家】研究ユニット（教師教育者クラス）
武田信子氏（武蔵大学・教授）
..「教師教育者の専門性開発をどう進めるかー教師を育てるひとの役割、行動と成長ー」.
- 2017年11月29日【カリキュラム】研究ユニット（教師教育クラス）
Andreas Gruschka 氏（元フランクフルト大学・教授）
..「ドイツをとおして考える授業研究と教師教育」.
- 2017年12月21日【学習空間】研究ユニット（インクルーシブ教育クラス）
北山夕華氏（サウスイースト・ノルウェー大学客員研究員）
..「ノルウェーの教育と多文化主義」.
- 2017年12月25日【学習空間】研究ユニット（インクルーシブ教育クラス）
EunMi Cho 氏（サクラメント州立大学教授）
..「通常の学級におけるユニバーサルデザインに基づくインクルーシブ教育の実践」.

<2017年度 研究拠点創成フォーラム>

- 2018年1月23日：広島大学・ソウル大学合同シンポジウム
..「Building Bridges: Fostering International Research Collaboration in Education」.
- 2018年2月3日～4日：【学習空間】研究ユニット
..「通常の学校における学校全体で取り組むインクルーシブ教育の実践」.
- 2018年2月17日：【カリキュラム】研究ユニット
..「国際バカロレア DP 日本語科目「歴史」授業の構想」.
- 2018年3月4日：【教育の専門家】研究ユニット
..「教育学研究者と教師教育者のアイデンティティ」.
- 2018年3月10日：日米欧・3研究ユニット連携
..「Reform of Teacher Education and Educational Research in Diverse Society」.

(2) 教育の reconstruction（再構築）を促進します

Edu2.0 から 3.0 へのパラダイムシフトは、社会との関わりにおいて具現されることが欠かせません。すなわち、たくさんの方がそのプロジェクトに参画し、意味・意義を実感できないと、そのデザインは「絵に描いた餅」に終わります。

そこで、EVRI の3つの研究ユニット、6つのクラスは、たえず社会と接点を築き、様々な活動を展開することとします。そして、国内外のコミュニティや学校、政府や企業等で働く様々な人々と協働しながら、漸進的に Edu2.0 の世界を再構築し、Edu3.0 の世界を実現してまいります。

これらのビジョンの達成に向けて、EVRI が協働してきたプロジェクトは、以下のとおりです。

<2017年度の協働プロジェクト例>

- 2017年5月～現在：ひろしま平和貢献ネットワーク協議会

「カンボジアにおける持続可能な社会構築のための社会科カリキュラム・教科書開発支援」の企画・運営の支援

- 2017年5月～7月： OECD 地方創生イノベーションスクール 2030
広島創生イノベーションスクール「グローバルスクール in 広島」の受託
- 2017年6月～2018年2月： 呉地域オープンカレッジネットワーク会議
「「橋」をテーマとした呉地域版くおもしろ数学カレンダー」の作成」の運営の支援
- 2017年7月27日： 広島大学大学院教育学研究科
「高等学校教員のための指導力向上セミナー」の企画・運営の支援
- 2017年9月～現在： JICA
「カンボジア国教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト」の受託
- 2017年10月26日： 広島県中学校社会科教育研究会
「第48回広島県中学校社会科教育研究大会」の企画・運営の支援
- 2018年1月9日・10日： 日本スポーツ振興センター
「ペルーに対する体育教師の能力開発支援」の「授業研究」研修の企画・運営の支援
- 2018年1月23日： 広島大学附属中高等学校
「IB教育をめぐる広大附属中高と広島県教委（学びの変革推進課）との研究協議」の企画・運営の支援

（3）教育の interaction（相互作用）の媒体となります

Edu2.0 から 3.0 へのパラダイムシフトを促進するには、人 agent の交流が効果的です。長期的な視野で Edu3.0 をデザインし、それを持続可能なカタチで立ち上げていくには、若い研究者、若い教師教育者、若い実践者、若い政策立案者をプロジェクトに巻き込んでいくしかありません。

そこで、EVRI は HUGLI（Hiroshima University Global learning Institute 広島大学海外研究拠点）への派遣事業を担うこととしました。EVRI のスタッフはもちろん、本学若手研究者を海外拠点に派遣し、（1）や（2）の事業を推進します。HUGLI だけでなく、国内外の関係機関とも交流を深める場を設定し、3ユニットの研究拠点化をはかります。とくに東アジア、CLMV 諸国、欧米との連携を強化し、EVRI はその「ハブ」機能を担います。

これらのビジョンの達成に向けて、EVRI が交流を深めてきた機関は、以下のとおりです。

<2017年度の HUGLI への派遣または関係機関との交流>

- 2017年7月： エジプト・カイロ大学
- 2017年8月： カンボジア・プノンペン王立大学
- 2017年9月： カンボジア・カンボジア教育・青年・スポーツ省
- 2017年9月： インドネシア・インドネシア教育大学
- 2017年9月： オーストリア・ウィーン大学
→オーストリア・ウィーン大学歴史文化学部と「部局間学術交流協定」の締結
- 2017年9月： インドネシア・ダルマプルサダ大学
- 2017年10月： カンボジア・カンボジア教員養成大学
- 2017年10月： 日本・京都大学教育学部

- 2017年11月：カンボジア・カンボジア教員養成大学
- 2017年12月：インドネシア・インドネシア教育大学
→インドネシア7大学及び教育文化省特別支援教育研修部門と「インクルーシブ教育研究コンソーシアムの交流準備協定」の締結
- 2018年1月：韓国・ソウル大学 教育学部

4. EVRI の組織と共同事業等のお誘い

(1) 【学習空間】研究ユニット

- テーマ：誰でもいつでも深く共に学ぶことができる学習空間をデザインします
- ユニットリーダー：川合 紀宗
- ユニットの構成と活動
- <「知識創生」クラスター>
 - ・基盤となる研究： 科研 基盤研究B「教室での知識の創出と進化を促す学習作業空間の構成に関する総合的研究」（代表：影山和也）→科研の要旨等を掲載（以下同じ）
 - ・メンバー：影山 和也（代表），永田 良太，森田 愛子
- <「インクルーシブ教育」クラスター>
 - ・基盤となる研究： 科研 挑戦的研究（萌芽）「インクルーシブ教育システム構築に向けた小学校外国語教育カリキュラムの開発的研究」（代表：川合紀宗）
 - ・メンバー：川合 紀宗（代表），松宮 奈賀子，兼重 昇

(2) 【カリキュラム】研究ユニット

- テーマ：学習者と教師の新たな学びを支援するカリキュラムをデザインします
- ユニットリーダー：棚橋 健治
- ユニットの構成と活動
- <「IB教育」クラスター>
 - ・基盤となる研究： 科研 基盤研究A「IBの理念を踏まえたカリキュラム・授業・評価の開発的研究」（代表：棚橋健治）
 - ・メンバー：棚橋 健治（代表），山元 隆春，間瀬 茂夫，井戸川 豊，木下 博義，三好 美織
- <「教師教育」クラスター>
 - ・基盤となる研究： 挑戦的研究（萌芽）「総合大学における汎用ポートフォリオ評価システムの開発による教職カリキュラムの改善」（代表：間瀬茂夫）
 - ・メンバー：間瀬 茂夫（代表），吉田 成章

(3) 【教育の専門家】研究ユニット

- テーマ：教師を支える教育者と研究者に求められる専門性をデザインします
- ユニットリーダー：丸山 恭司
- ユニットの構成と活動
- <「教師教育者」クラスター>
 - ・基盤となる研究： 科研 基盤研究B「グローバルに教職高度化を促進する教師教育者

養成研修モデルの開発」(代表：丸山恭司)

- ・メンバー： 丸山 恭司 (代表), 岩田 昌太郎, 桑山 尚司

<「教育学研究者」クラスター>

- ・基盤となる研究： 科研 基盤研究B「教科教育学のパラダイムと社会的責任の国際比較—社会科教育研究者が果たす役割とは—」(代表：草原和博)
- ・メンバー： 草原 和博 (代表), 小山 正孝, 川口 広美, 佐藤 万知

(4) 運営支援チーム

- ・教育研究推進員： 大坂 遊, 吉川 友則
- ・事務補佐員： 草原 聡美

私たち EVRI は、ミッションを達成するために、共同事業、共同研究、受託研究および講演等をお引き受けいたします。本運営支援チームにお問い合わせください。

(草原和博*, 木下博義, 松宮奈賀子, 川合紀宗, 三好美織, 影山和也, 川口広美, 棚橋健治, 山元隆春, 間瀬茂夫, 兼重昇, 永田良太, 岩田昌太郎, 井戸川豊, 吉田成章, 森田愛子, 桑山尚司, 大坂遊*, 吉川友則)

Ⅲ ログとバナースタンド

EVRI のミッションと6つのクラスター、学術研究と社会・世界とのつながり、そして教育イノベーションへの貢献とダイナミックな躍動をイメージさせるロゴを作成した。またロゴを配したバナースタンドを作成した。各種イベントではこのバナーを掲示し、本センターの広報に努めた。

なお、ロゴとバナーの作成には、「イナダ Web デザイン」の協力を得た。



図4 ログを配した2種類のバナーのデザイン

(草原和博*)